

「深めよう 絆 県民の集い」を開催しました

学校・家庭・地域が連携して、いじめ問題について考えたり、子どもの社会性を育てたりして、いじめ等の解消や未然防止を図るために、「深めよう 絆 県民の集い」を開催しました。今年度は、地域の特色を生かし、県民運動の地域的な広がりを目指すために、上越・中越・下越地区で開催しました。

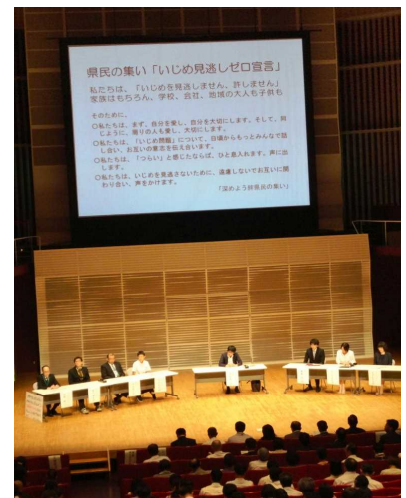
【10月1日（日）上越地区 会場：リージョンプラザ上越】

友達関係についてのアンケート結果を基に、中学生・高校生、高校教師、保護者の代表がいじめについての本音を語り合いました。「いじめ等で悩んだときに相談できる相手は？」『誰にも相談しない』と考える理由は？」等、本音を交わしながら、いじめの未然防止や早期発見の手掛かりについて考えました。また、諸富 祥彦 様（明治大学教授）による講演「いじめと闘う心を育てる」が行われました。集いをおして、友達関係の悩みを聞き、身近な相談者として大人はどんな力になれるのか、「ストップ・ザ・いじめ」に向け、一人一人ができることを本気で考えました。（約570人参加）



【9月25日（月）中越地区 会場：長岡リリックホール】

赤坂 真二 様（上越教育大学教職大学院教授）による基調講演「いじめに強い学校・地域づくり」では、自尊感情を高めるために、共感するシステムを学校、地域につくる大切さを学びました。その後のリレートークでは、水沢中学校から生徒会主体の取組について、大学生や保護者の方からは体験に基づいた提案を、個人サポーターやスクールソーシャルワーカーの方からは、周囲への相談の仕方についてヒントをいただきました。参加者がともに、いじめ見逃しゼロに向け、自分は何ができるか、どうしたら子どもが周りの大人に相談できるのかを真剣に考える場となりました。（約600人参加）



【10月14日（土）下越地区 会場：聖籠町町民会館】

山倉小学校の6年生による息の合った太鼓演奏で始まり、本丸中学校、荒川高等学校、村上特別支援学校、NPO法人「希楽々」から、学校、家庭、地域がつながりながら進めている子どもたちの社会性を育む取組が紹介されました。絆づくりや自立に向けたかかわり方の大切さが伝わってきました。その後、小野田 正利 様（大阪大学大学院教授）による講演「子どものために手をつなぐ～いま、親そして大人ができること」が行われ、学校と家庭とのよい関係づくりのために、互いの立場と価値観の違いに目を向けることの大切さを学びました。（約650人参加）

